

令和5年度 東久留米市立 下里中学校

学校評価報告書

学校教育目標	○ 知性を高めよう	教育ビジョン	【目指す学校像】	「生徒を大切にし、鍛え、良き社会人を育成する学校」	・生徒一人一人を大切にし、良さを伸ばし、生き生きと活動できる学校 ・生徒と生徒、生徒と教職員が相互に信頼する温かい学校
	○ 心身を鍛えよう		【目指す児童・生徒像】	①自ら学び、考え、生き生きと活動し、表現できる生徒 ②自らを鍛え、心身ともに健康な生活ができる生徒 ③自他を大切にし、尊重し合い、いじめや差別を許さない生徒	
	○ 広く思いやろう		【目指す教師像】	①「良き社会人」を育てるために、生徒の心を温かく理解し、厳しく指導する教師 ②一人一人が自分の強みを発揮しながら、組織として課題解決に取り組む教師 ③責任を自覚し、役割を果たすことで保護者・地域からの信頼を得るとともに、期待に応えられる教師	
前年度までの学校経営上の成果と課題	hyper-QUテストの実施と分析、及びその活用により、生徒対応や学級経営での問題点と課題を発見することができ、改善をしていく際の有効な手掛かりとなった。 今年度は校内研修を実施してより深くテストの本質を学び、テスト結果が有効に活用されることにより、全ての生徒が安心して学校生活を過ごし、意欲的に学習や活動に取り組むことができる落ち着いた学級・学校づくりを行う。				

東久留米市第2次教育振興基本計画				中期経営目標 (令和7年度までの3年間)	短期経営目標 (1年間)	評価指標・評価基準		自己評価			学校関係者評価	次年度の方策
No.	三つの柱	基本施策	今年度学校で重点を置く「具体的施策」			取組指標	成果指標	取組	成果	評価	コメント	
1	I 健全育成	個性を認め合う教育の推進	自己肯定感・自己有用感の醸成	全ての生徒一人一人の居場所を作る。	客観的な生徒の実態把握と的確な生徒理解に努める。	・5月に生徒理解研修を実施し、特別な支援を必要とする生徒の共通理解を図る。 ・7月にhyper-QUテストの実施と分析、9月に活用研修会を実施し、生徒対応や学級経営に活用する。	・生徒向けアンケートの結果【肯定的な回答】 4: 80%以上 3: 60%以上 2: 40%以上 1: 40%未満	・5月と10月に生徒理解研修を実施した。 ・7月にhyper-QUテストの実施と分析、9月に活用研修会を実施した。	4	4	・hyper-QUテストの実施と分析は、来年度も引き続き継続してもらいたい。	・生徒理解研修は、今年度と同じ時期に実施し、全教職員で生徒の共通理解を図る。 ・hyper-QUテストは、今年度は各学年1回実施であったが、1年生は実態や変容をより詳細に把握するため、2回実施とした。
2	I 健全育成	規範意識や他人への思いやりなど豊かな心を育む教育の推進	規範意識と豊かな人間関係を育む教育	自分も他人も大切にしようとする意欲、態度を育成する。	社会の一員として時間を意識して行動する規範意識の育成と、「伸び伸びさわやか 下里中」の実践を行う。	・全教員による授業規律の徹底(チャイム始業・終業、号令による挨拶)を行う。 ・生徒会主催のあいさつ運動を実施する。	・学校評価アンケートの結果【肯定的な回答】 4: 80%以上 3: 60%以上 2: 40%以上 1: 40%未満	・特に「チャイム始業」を重点に継続した指導を行った。 ・毎週水曜に実施した。	4	4	・あいさつ運動は、生徒会だけでなく部活動単位でも参加を検討してもらいたい。	・生徒の委員会活動に働きかけながら授業規律や時間を意識した学校生活を心がけさせる。 ・あいさつ運動は継続していきたい。
3	I 健全育成	いじめ問題への対応	いじめ防止対策推進基本方針に基づいた取り組みの推進	いじめの未然防止、早期発見、早期対応・解決を図る。	全教員でいじめについての共通理解を図るとともに、定期的ないじめ対策委員会を開催し、いじめの未然防止、早期発見、早期対応・解決を図る。	・いじめについての校内研修を年2回実施する。 ・毎週1回、いじめ対策委員会を開催する。 ・生徒向け生活アンケートを年3回実施する。	・学校評価アンケートの結果【肯定的な回答】 4: 80%以上 3: 60%以上 2: 40%以上 1: 40%未満	・7月と1月に実施した。 ・毎週水曜に実施した。 ・各学期末に実施した。	4	4	・いじめの未然防止に向けた取組とともに、いじめの早期発見や早期対応への取組、いじめの重大事態発生時の対応についても、常に高い意識をもってほしい。	・ホームページに掲げる「学校いじめ防止基本方針」をより実効性のあるものにする。 ・教職員全体でいじめ防止に向けた共通理解を図る。報告・連絡・相談・記録を確実に、学校全体で総合的ないじめ防止対策を進める。 ・今年度と同じ時期・同じ規模で生活アンケートを実施し、いじめの未然防止・早期発見・早期対応を行う。
4	II 学力向上	確かな学力の育成	教員の授業改善、指導力の向上の推進	授業のユニバーサルデザイン化を進めるとともに、ICTの効果的な活用場面を年間指導計画に位置付け、実施する。	全教員が授業のユニバーサルデザイン化の意義を理解し、授業実践に取り組むとともに、タブレット端末やICT機器の効果的な活用を進める。	・校内研修として、小グループでの一人1回の研究授業と相互授業参観を実施する。 ・共通の授業の流れとして、「ねらいの提示→展開→振り返り・まとめ」を実践する。 ・生徒による授業評価アンケートを年2回実施する。	・生徒による授業評価アンケートの結果【肯定的な回答】 4: 90%以上 3: 70%以上 2: 50%以上 1: 50%未満	・2学期に5グループに分けて実施した。 ・特に導入時の「ねらいの提示」を意識した授業展開を行った。 ・教育活動に関するアンケートを12月に実施した。	3	3	・教員の指導力向上に向けた取組は、ぜひ毎年実施してもらいたい。 ・タブレットPCの活用を、さらに進めてほしい。	・教員の資質向上に向けた校内研修を来年度も企画する。 ・授業のユニバーサルデザイン化を常に教員が意識し、全ての生徒にとって分かりやすい授業づくりを進める。 ・教育活動に関するアンケートは来年度も実施をする。
5	II 学力向上	各学校におけるカリキュラム・マネジメントの推進	言語活動の充実によるコミュニケーション能力の育成	全教育活動における言語活動を充実させ、自分の考えを表現できる力を身に付けさせる。	授業の中で話し合い活動を効果的に取り入れ、豊かな表現力と伝え合う力を育てる。	・全教科において言語活動を取り入れた授業を実践する。 ・学年ごとの総合的な学習の時間の授業で、取組の成果を発表させる。	・学校評価アンケートの結果【肯定的な回答】 4: 80%以上 3: 60%以上 2: 40%以上 1: 40%未満	・各教科の単元ごとに、生徒の言語活動の機会を確保するよう努めた。 ・行事のまとめの際に、個人や班の活動内容を報告する機会を設定した。	4	4	・班活動などで生徒が何らかの発表の準備に関わったというのではなく、一人一人に発表する機会が与えられるような場にしてほしい。	・学校の教育活動全体を通して、生徒に経験や体験をさせたり考えさせたりする機会をより多く設定する。 ・言語活動や多様な表現活動を取り入れていく中で、生徒の学習意欲を高めたり思考力を深めたりしていく。
6	II 学力向上	特別支援教育の充実	個に応じた就学の推進	専門機関との連携を深め、個々の特性に合った進路指導を進める。	教職員及び保護者の特別支援教育への理解を深める。	・週1回開催の校内委員会を起点として、けやき教室や他の専門機関との連携を促進する。 ・保護者会でけやき教室を紹介したり、別室登校経験者による「先輩の話」を聞く会を開催したりすることで、特別支援教室や新たな学び場への理解啓発を行う。	・学校評価アンケートの結果【肯定的な回答】 4: 80%以上 3: 60%以上 2: 40%以上 1: 40%未満	・毎週水曜に開催し、生活の様子や態度・学習状況についての共通理解を図った。けやきだよりを発行した。 ・10月に「先輩の話」を開催した。保護者の参加も得られた。	4	4	・けやきだよりは、内容に個人情報が含まれているので配布先が限られてしまう。東久留米市や下里中の特別支援教室を紹介する内容の配布物を年に何回か配布してもらいたい。	・特別支援教室の様子を保護者や地域に伝える手段を検討する。 ・「先輩の話」は、今年度と同規模で開催を計画する。
7	III 教育環境の整備	各学校におけるカリキュラム・マネジメントの推進	学校評価に基づく学校経営の継続的な改善	学校評価に基づく教育活動の工夫・精選を行う。	学校の教育活動に関する情報発信を充実させる。	・学校ホームページの随時更新や、学校だより・学年だよりの計画的な発行により、教育活動の様子を広く保護者・地域に発信する。 ・行事ごとに生徒・保護者・教員にアンケートを実施する。	・学校評価アンケートの結果【肯定的な回答】 4: 80%以上 3: 60%以上 2: 40%以上 1: 40%未満	・各媒体により、定期的に学校の様子を発信した。 ・アンケート結果は、学校だよりに掲載して還元した。	4	4	・アンケートの実施は大変有効であるが、記載方法が自由記述方式だと記入に時間がかかり敬遠してしまう。選択方式に変えてみてはどうか。	・学校の様子の発信は、今年度と同規模で実施する。 ・アンケートの取り方については、課題として再検討を行う。
8	III 教育環境の整備	安全・安心な学校づくり	組織体としての学校機能の強化	各分掌の役割の精選と連携を明確化する。	経営支援部と他の分掌との役割・関連を整理し、学校運営の円滑化を図る。	・経営支援会議を各学期1回開催し、事務・給食・用務等、異職種との組織内連携を深め、それぞれの職種内だけでは十分な力が発揮できていなかった箇所への対応を共同で取り組む。	・学校評価アンケートの結果【肯定的な回答】 4: 80%以上 3: 60%以上 2: 40%以上 1: 40%未満	・経営支援会議を各学期1回実施して情報連携を行い、分掌間の横のつながりを強化した。	3	3	・経営支援部の動きは学校関係者からは見えない部分が多いが、校内の組織内連携は大変有用なことなので継続して連携を図ってもらいたい。	・今年度と同規模で各学期1回開催し、異職種間の連携を深める。
9	III 教育環境の整備	児童・生徒の主体的な取組	地域や外部人材を生かした体験活動の充実	大規模改修後の校舎内外の環境維持と施設・設備の充実を図る。	中庭の整備活動である「下里中 中庭プロジェクト」を、生徒・教職員・保護者・地域が一体となって取り組む。	・中庭プロジェクトを校務分掌に位置付け、組織的に運営する。 ・今年度の年間計画を作成して実践する。 ・活動状況や活動成果を生徒・保護者・地域に向けて発信する。	・学校評価アンケートの結果【肯定的な回答】 4: 80%以上 3: 60%以上 2: 40%以上 1: 40%未満	・3名を担当に位置付けた。 ・年間計画に沿って、夏と冬までの管理を行った。 ・活動の様子は、ホームページの写真館で紹介した。	3	3	・年間計画からおおよその活動日は分かるが、実際の活動日は急に決まることが多く、大人は参加しづらい。 ・プロジェクトメンバーと当日のみの参加者がいるため、活動の趣旨が理解されず、落ち着いた活動となっていないときがある。	・担当教員を中心に活動を進めていく。 ・活動の趣旨をしっかりと理解させた上で参加をさせる。 ・年度当初に年間計画を作成する。変更は早急に全体に周知する。
10	オリンピック・パラリンピックの精神を生かした教育の充実	体験的な活動	地域や外部人材を生かした体験活動の充実	学校内外でのボランティア活動を充実させ、ボランティア精神の醸成を図る。	「学校主催ボランティア」「生徒会主催ボランティア」「地域行事ボランティア」等に積極的に参加する。	・「下里中 中庭プロジェクト」「朝の地域清掃」「地域の夏祭り」等に積極的に参加し、協力をする。	・ボランティア活動への参加状況 4: 80%以上の生徒が1回以上参加 3: 60%以上の生徒が1回以上参加 2: 40%以上の生徒が1回以上参加 1: 40%未満の生徒が1回以上参加	・中庭プロジェクトは、年間を通して芝の水やりや手入れを行った。地域清掃は6月に実施した。夏祭りは7月に吹奏楽部が出演した。青少協の環境整備に参加した。	2	3	・参加状況は40%であったが、新型コロナウイルス移行後、現時点でも地域からのボランティア依頼は以前の状況にまで回復していない。回復していたならば、もう一つ上の評価になったと思う。	・生徒会朝礼や生徒会だより、ポスター等を活用しながらボランティアへの参加を促す。活動の様子は、ホームページ・各種たより等で紹介をする。